

特ラ機構レポート

No.211

令和8年7月1日

令和8年 通常総会 報告	2
令和8年度 第1回理事会 報告	5
第26回特ラ機構技術賞 表彰式	8
令和8年通常総会 懇親会	12
イベント情報	13
モータースポーツ無線協会 (MoSRA) からのお願い ...	14
ちょっとブレイク	15
事務局 便り	18



令和8年「一般社団法人 特定ラジオマイク運用調整機構」 通常総会 報告

令和8年6月18日(木)、東京都港区の「明治記念館」において、表記に関する各種議案を審議し、関連行事を実施した。その後、懇親会を開催した。

1. 通常総会 15:00 ～ 16:30 (2階「孔雀の間」)

- 第1号議案 令和7年度事業報告、同年度収支決算ならびに監査報告
- 第2号議案 令和8年度事業計画(案)、同年度収支予算(案)
- 第3号議案 令和8・9年度 理事・監事の改選
- 第4号議案 事務所移転について

出席者 28 名

2. 技術賞表彰式 16:40 ～ 17:40 (2階「孔雀の間」)

出席者 59 名

3. 懇 親 会 18:00 ～ 20:00 (2階「鳳凰の間」)

出席者 71 名

1. 通常総会

司会の石川事務局次長から、総数 1,733 会員(令和8年3月31日現在)のうち出席者 28 会員、議決権行使書提出 301 会員、委任状提出 606 会員で定款第 21 条の通常総会開催のための議決権の過半数を有する正会員の出席があり、本通常総会は成立するとの報告があった。

総会の議長選出

定款第 19 条により議長は渡邊理事長が担当した。

議長選出の後、議事録署名人2名の選出があり、金光浩昭理事と古藤崇理事が議事録署名人となった。

第1号議案

令和7年度 事業報告

1. 会員数と特定ラジオマイク局数
2. 運用連絡・調整
3. 総務省・ARIB
4. 情報収集と調査研究
5. 事務局
6. 理事会・各委員会
7. 組織と管理

以上の主要項目の報告を石川事務局次長がおこなった。



議長を担当した渡邊理事長(中央)。

総会は理事・監事・一般会員の出席にて開催された



各議案について事務局から説明があった

令和7年度 収支決算報告並びに監査報告

収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書の内容については、神守職員が報告をおこなった。その後、伊藤博監事と國枝義久監事が監査報告をおこなった。

上記の第1号議案は異議なく承認された。

第2号議案

令和8年度 事業計画（案）

1. 会員数と所有する特定ラジオマイク局数
2. 運用連絡・調整
3. 総務省・ARIB
4. 情報収集と調査研究
5. 事務局
6. 理事会・各委員会
7. 組織と管理

以上の主要項目の説明を渡邊理事長がおこなった。



伊藤監事（写真右）と國枝監事から「監査報告」があった

令和8年度 収支予算（案）

令和8年度収支予算（案）は松崎職員から説明があった。

上記の第2号議案は異議なく承認された。

第3号議案

令和8・9年度（2026・2027 年度）理事・監事の推薦

本議案の概要について、神守主査が説明した。その後、「理事・監事選挙管理委員会」の報告書について、稲留浩委員長の欠席に伴い、石川事務局長が代読した。

上記の第3号議案は異議なく承認された。

第4号議案

定款変更の件（主たる事務所所在地の変更）

1. 事務所移転の経緯
2. 定款変更の目的
3. 定款変更の内容
4. 定款変更の効力発生予定日

以上の内容について、石川事務局長から説明があった。

上記の第4号議案は異議なく承認された

ここで総会を10分休憩して、令和8年度第1回理事会を開催した。新理事を含む理事・監事の選任が総会で承認された旨の報告をおこない、第1回理事会は終了となった。その後、総会が再開された。

令和8・9年度 理事・監事の紹介

令和8・9年度の理事会を担う理事・監事の紹介があり、総会は終了した。



[理事会報告] 令和8年度 第1回 理事会

1. 日 時 令和8年6月18日(木) 16:10 ~ 16:20

2. 場 所 明治記念館 2階「孔雀の間」

3. 出席者 (理事長・理事・監事総数 23 名)

出 席 [理事長] 渡邊邦男

[理 事] 岩井佳明, 上田好生, 大塚 豊(玉置秀之), 小野良行,
風上哲也, 金光浩昭, 北口紀雄, 木村和子, 古藤 崇,
小林 敬, 鈴木久利, 瀬谷正夫, 福澤裕之, 本間俊哉,
右田研介, 山下伸一郎, 吉田諭敏

[監 事] 伊藤 博, 國枝義久

委任出席 [理 事] 池上行大, 川瀬健児, 長屋義昭

4. 報告事項

令和8・9年度 理事・監事の選任と新理事の承認

定款第4章第29条により、現役員が任期満了を迎えたため、以下の経緯をもって令和8・9年度の理事・監事体制が決まった。

理事・監事候補者推薦委員会の推薦を受けた理事21名、監事2名の候補者については、令和7年度第5回及び第6回理事会の賛同を得た。

それを受け、理事・監事選挙管理委員会の下、候補者に対する意見公募を全会員に対しておこない、令和8年通常総会において、23名の理事・監事は令和8・9年度の役員として承認された。

令和8・9年度 理事・監事の紹介

その後、令和8・9年度の理事・監事の紹介があった。



第1回理事会の後、通常総会にて令和8・9年度を担う理事・監事が紹介された

令和 8 年 6 月 11 日

理事・監事選挙管理委員会 報告書

一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構
理事・監事選挙管理委員会 委員長

稲 留 浩



令和 8 年度機構役員改選にあたり、「令和 7 年度 理事・監事候補者推薦委員会」（令和 8 年 1 月 22 日）にて推薦された理事・監事につき、委員会・理事会の選考状況を監察し、総会前に全会員への通知をおこない、異議等の意見を募りました。

その結果、会員から寄せられた「議決権行使書」「委任状」に不正はなく、今回の理事・監事選出において、健全に推移したことを報告いたします。

以上

令和8・9年度一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構 理事・監事名簿

	役 職	氏 名	所属団体・会社 部署	役 職
1	理 事 長	わたなべ くにお 渡邊 邦男	兼務（公社）日本舞台音響家協会	理事
2	理 事	いけがみ いくお 池上 行大	（株）千代田ビデオ 技術本部	
3	理 事	いわい よしあき 岩井 佳明	（株）テークワン・オーディオ	代表取締役
4	理 事	うえだ こうせい 上田 好生	（公財）新国立劇場運営財団 技術部	音響課長
5	理 事	おおつか ゆたか 大塚 豊	（株）NHKテクノロジーズ 制作技術部音声	専任部長
6	理 事	おの よしゆき 小野 良行	ヒビノ（株）	顧問
7	理 事	かざかみ てつや 風上 哲也	ケイズサウンド（株）	代表取締役
8	理 事	かねみつ ひろあき 金光 浩昭	（株）三光	専門職（音響担当）
9	理 事	かわせ けんじ 川瀬 健児	（株）クレアジャパン	取締役副社長 COO
10	理 事	きたぐち のりお 北口 紀雄	（株）ティー・ピー・オー	代表取締役
11	理 事	きむら かずこ 木村 和子	有識者	
12	理 事	こうたか たかし 古藤 崇	（株）共立 舞台制作事業本部 音響部	部長
13	理 事	こばやし けい 小林 敬	（株）エディスグローヴ	代表取締役
14	理 事	すずき ひさとし 鈴木 久利	有識者	
15	理 事	せや まさお 瀬谷 正夫	（株）エス・シー・アライアンス	
16	理 事	ながや よしあき 長屋 義昭	（株）ドリーム	取締役
17	理 事	ふくざわ ひろゆき 福澤 裕之	那覇文化芸術劇場 文化振興課	主幹
18	理 事	ほんま としや 本間 俊哉	東宝（株）シアタークリエ（株）フリックプロ	代表取締役
19	理 事	みぎた けんすけ 右田 研介	（株）若尾総合舞台	常務取締役
20	理 事	やました しんいちろう 山下 伸一郎	（株）総合舞台 音響部	執行役員
21	理 事	よしだ つぐとし 吉田 論敏	（学）東放学園 キャリアサポートセンター	顧問
22	監 事	いとう ひろし 伊藤 博	有識者	
23	監 事	くにえだ よしひさ 國枝 義久	有識者	

令和8年6月18日現在

第26回特ラ機構技術賞 表彰式

令和8年6月18日(木) 16:40～17:40

第26回特ラ機構技術賞の表彰式が、通常総会後に同会場にて開催された。

選考委員は以下のとおり。

委員長：渡邊邦男（特ラ機構 理事長）

委員：石橋 透（学識経験者）

上田好生（特ラ機構理事 新国立劇場）

高山浩明（特ラ機構賛助委員会委員

株式会社フォノフ）

武藤一郎（アドバイザー）

渡辺聖尚（特ラ機構 事務局）

以上の6名。



技術賞委員会 渡邊委員長

今年度は学生部門5作品、一般部門7作品の応募があり、最終選考を令和8年4月20日(月)に株式会社エス・シー・アライアンスのスタジオにておこなった。

受賞作品は次項のとおり。

第26回 特ラ機構技術賞 受賞者一覧

【学生部門】

奨励賞 東放学園専門学校

ドラマ「ナミダヨリ。」

銀賞 日本大学芸術学部 映画学科

撮影録音コース 鈴木仁那

映画「さまよう」

銀賞 放送芸術学院専門学校

ミュージカル「Step Of Life」

金賞 放送芸術学院専門学校

ミュージカル「明日への扉 Hospital Of Miracle」



第26回 特ラ機構技術賞 表彰楯と
八幡賞クリスタルトロフィー

【一般部門】

奨励賞 聖書キリスト教会 東京教会

「Christmas Celebration 2025

～祝おう、歌おう、とってもクリスマス～」

金賞 丹波篠山市立田園交響ホール・ステージオペレータークラブ

丹波篠山市民ミュージカル第12弾

「シンデレラ ～ハシバミの木と愛の魔法～」

【八幡賞】

丹波篠山市立田園交響ホール・ステージオペレータークラブ

丹波篠山市民ミュージカル第12弾

「シンデレラ ～ハシバミの木と愛の魔法～」

【第26回 特ラ機構技術賞】

学生部門 奨励賞

東放学園専門学校

ドラマ「ナミダヨリ。」

表彰楯 本文

丁寧に作られた作品からスタッフそれぞれの役割分担の成果が現れています。

ドラマ制作も舞台と同じ総合芸術だということを改めて感じさせてもらいました。

皆さんの今後の成長が楽しみです。



東放学園専門学校
キャリアサポートセンター
原澤 匠 様、沼尾 悠太 様

学生部門 銀賞

日本大芸術学部 映画学科

撮影録音コース 鈴木仁那

映画「さまよう」

表彰楯 本文

独特な映像表現に触発された新しい音の作り方、色々な発見がありました。

今後もチャレンジを続けてください。



日本大学芸術学部 映画学科
鈴木 仁那 様、阿部 今日花 様

学生部門 銀賞

放送芸術学院専門学校
ミュージカル「Step Of Life」

表彰楯 本文

丁寧な作品創りに加え、次回作への課題も確りと見つけられているところに共感します。
このレベルアップが更なる成長に繋がることを期待します。

学生部門 金賞

放送芸術学院専門学校
ミュージカル「明日への扉
Hospital Of Miracle」

表彰楯 本文

小さな声のセリフからシャウトするVoまで、
ダイナミックレンジの異なる音声処理が丁寧になされ、音楽とのバランスも良く気が付けば物語に引き込まれていた。
この素晴らしいチームワークを讃えます。



放送芸術学院専門学校
岡田 颯志 様、阿部 湊奈 様、橋村 彩音 様

※放送芸術学院専門学校様は受賞作品が複数ございましたので、二作品まとめたの表彰となりました。

一般部門 奨励賞

聖書キリスト教会 東京教会
「Christmas Celebration 2025
～祝おう、歌おう、とってもクリスマス～」

表彰楯 本文

子供たちからお年寄りまでとても楽しそうに演じられていた。
バラエティにあふれたクリスマスコンサート、歌と伴奏のバランスも良くステージの音作りにWLマイクを上手につかっていた。



聖書キリスト教会 東京教会
宮地 未来 様、長谷川 千洋 様

※ 機材トラブルにより表彰式当日の紹介映像に不具合がございました。
関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

一般部門 金賞

丹波篠山市立田園交響ホール・ステージオペレータークラブ
丹波篠山市民ミュージカル第 12 弾
「シンデレラ ～ハシバミの木と愛の魔法～」

表彰楯 本文

公演を重ねるごとにスキルアップする技術力！常に原点に返って努力する姿勢！
マイクヘッドの付け位置一つ取っても作品への配慮が感じられて素晴らしい！
次回作も期待しています。



田園交響ホール・ステージオペレータークラブ
山内 伸広 様、加藤 りな 様

八 幡 賞

丹波篠山市立田園交響ホール・ステージオペレータークラブ
丹波篠山市民ミュージカル第 12 弾
「シンデレラ ～ハシバミの木と愛の魔法～」

業界発展のためにご尽力され、令和 3 年 2 月 25 日に亡くなられた八幡泰彦名誉会長を顕彰して設定された賞。その年の特に優れた作品に贈呈し、今年で 12 回目となる。



田園交響ホール・ステージオペレータークラブ
山内 伸広 様、加藤 りな 様



第 26 回 特ラ機構技術賞受賞者のみなさま

令和8年通常総会 懇親会

令和8年6月18日(木) 18:00～20:00

明治記念館 鳳凰の間（東館2階）

令和8年通常総会ならびに第26回特ラ機構技術賞表彰式に続き、会場を鳳凰の間に移して18時より懇親会が開催された。

はじめに渡邊理事長から挨拶があり、続いてご来賓を代表して総務省総合通信基盤局電波部移動通信課 課長補佐 田野 正行 様よりご挨拶を頂いた。

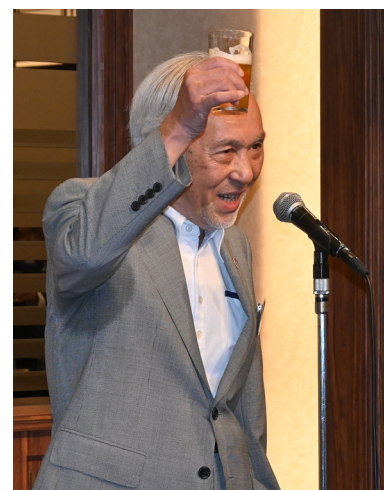
乾杯のご発声は日本舞台音響事業協同組合 監事 西澤 勝之 様より頂き、賑やかに懇談会がスタートした。

途中、特ラ連の時代から長らく事務局にお勤め頂き、この度の総会をもって退任された木村和子事務局長に花束が贈られた。

中締めのご挨拶は当機構理事で学校法人東放学園 キャリアサポートセンター 顧問の吉田 諭敏様より頂き、令和8年通常総会の懇親会は幕を閉じた。



総務省総合通信基盤局
電波部移動通信課 課長補佐
田野 正行 様



乾杯のご発声をいただいた
日本舞台音響事業協同組合 監事
西澤 勝之 様



中締めのご挨拶をいただいた
学校法人東放学園
顧問 吉田 諭敏 様



懇親会 会場の様子

イベント情報

展示会等では月曜日からの搬入・設営が増えてきております。

多チャンネルプランを組む場合、前の週の金曜日には周波数配分が完了している場合が多いため、土曜日、日曜日に運用連絡票をお送り頂いても、急ぎ対応できないことがありますのでご注意ください。

運用連絡票のご提出は早めをお願いいたします。

日 程	展 示 会 名	場 所
7 月 1 日～7 月 3 日	第 38 回ものづくりワールド ★	東京ビッグサイト
7 月 22 日～7 月 24 日	AI World 2026 夏 東京 ★	幕張メッセ
7 月 22 日～7 月 24 日	FOODEX JAPAN in 関西 2026 ★	インテックス大阪
8 月 14 日～8 月 16 日	SUMMER SONIC 2026 ★	幕張メッセ
8 月 26 日～8 月 28 日	マンション経営・管理支援 EXPO	インテックス大阪

★：複数会員社による同時使用実績あり

♪ ルールを守って クリアな運用 ♪

ちょっとブレイク原稿大募集！

皆様からの原稿をお待ちしております！今ハマっていること、お仕事のこと、大好きなアーティストのこと、ご当地自慢などなど・・・お題は自由です。

お名前を出したくない場合はペンネームでも OK です。

レポートに掲載させていただいた方には、些少ですが謝礼を差し上げております。

まずは下記アドレスまでお気軽にお問い合わせください。

Email : office@radiomic.org



—モータースポーツ無線協会（MoSRA）からのお願い—

令和8年7月25日(土)～26日(日)の2日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）周辺で『Formula e Tokyo E-Prix』が開催されます。

レース開催にあたり、主催者から相当数のラジオマイク等の使用希望があり、現在、総務省と調整をおこなっておりますが、例年と同様、TV ホワイトスペース帯の周波数を多数使用することになります。

MoSRA として登録するラジオマイクの本数は昨年よりも少なくなっておりますが、レース関係者の中には日本国内で機材を調達する者もあり、さらに東京ビッグサイト内で開催予定の関連イベントでもラジオマイクを使用するものと予想されます。恐らく昨年同様、もしくはそれ以上の周波数を使用することになると思われます。

ラジオマイクの使用期間は、7月22日(水)～26日(日)の5日間です。特ラ機構会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、東京都公認の行事であり、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本レースにつきましては、1.2GHz 帯の使用はありません。

本レースに関するお問い合わせは、F1 同様、モータースポーツ無線協会の田中が対応いたしますが、使用当日の東京ビッグサイト周辺の運用調整につきましては、特ラ機構様（担当：甲田テクニカルディレクター）に依頼しておりますので、具体的な確認・調整は特ラ機構様にお願いいたします。

『Formula e Tokyo E-Prix』

場 所：東京ビッグサイト（東京都江東区）周辺

開催日：令和8年7月25日(土)～26日(日)

ラジオマイク使用期間：令和8年7月22日(水)～26日(日)

使用周波数帯：TV ホワイトスペース帯

＜本件に関する問い合わせ先＞

モータースポーツ無線協会 田中

電話：03-6402-2744

E メール：t-tanaka@mosra.jp



WOWOW 製作・三谷幸喜監督作品 105 分 1 カットムービー
映画「おい、太宰」録音レポート
～ワイヤレスマイクのみによる同時録音～
(後編) 映画録音技師 瀬川徹夫

【リハーサル開始から本番に至るまで】

準備班および美術部は、2024 年 9 月 9 日より現地に入り作業を開始した。一方、東宝撮影所では並行して衣装合わせや本読みが連日行われていた。9 月 29 日からの 6 日間は、東宝第 9 セット床に現地の地形を模した動線を描き、キャストのリハーサルが実施された。私は 1 日のみ現地ロケハンに同行したが、その際の浜辺の波は穏やかで、懸念していた海風もさほど強くはなかった。ただし自然環境は日々刻々と変わるため、忙しいキャストのスケジュールを考慮し、セット内でのリハーサル時にも現地と同じ装備を用いて収録を試みた。

10 月 9 日から 11 日にかけての 3 日間は、現地でのリハーサルが実施された。最終日には俳優が衣装を着用し、ドローン撮影も含めた総合的な通し稽古となった。録音部としては、FM ラジオ放送の運用も含めて、本番を見据えた実践形式での収録を行っている。リハーサルの結果、広大な撮影現場およびキャストの長距離移動により、ワイヤレスマイクの受信限界が明らかになったため、急遽 B セットおよび D セットにスプリットアンテナを追加。その日の深夜に東京へ戻って準備するという対応を行った。

本番は、10 月 13 日から 18 日までの 6 日間にわたり予定された。撮影は干潮のタイミングに合わせて 1 日 1 回のみ行う形式だったが、この時期の潮位変化により引き潮の時間が日ごとに

遅れ、撮影開始時間も毎日後ろ倒しとなる状況になった。最終日 18 日はあいにくの雨で中止となり、撮影内容の見直しが必要となった。最終的に OK テイクの再検討が行われ、監督の「もう一度挑戦したい」との意向から、10 月 30 日と 31 日に再撮影が決定。これにより、機材や配線の再撤収と再設置、さらには一部スタッフ・機材の入れ替えが必要となり、現場の頭を悩ませることとなった。

【撮影とプレビュー】

撮影当日は準備時間の確保が不可欠であり、録音部は毎朝 5 時には下田のホテルを出発し、約 30 分かけて現場入りする。まだ暗いうちから、各収録ポジションでの機材設置やケーブルの引き回し、放送機器のチェックなど、通常の撮影以上にやるべきことが多かった。

現場に到着後、私は小型録音機を携えて、現代の町から浜辺、洞窟を抜けて昭和の浜辺へ至るまで、カメラの移動経路に沿ってステレオ効果音の収録を行っている。

全スタッフには FM ラジオを配布し、送受信機器の動作確認を兼ねたテストも実施。撮影は毎回、特注の大型ドローンによる撮影から始まった。このドローンは既製品ではなく、撮影の意図に合わせて特別に製作したものだとしてドローンビレッジのスタッフに聞いた。ドローンの飛翔音が現場に聞こえてくると、期待と緊張感が高

まる瞬間でもあった。

撮影時間はおよそ2時間強に及ぶが、日によっては予期せぬ事態も発生する。たとえばキャストの熱演により動線が予想を超え、スタッフがカメラのパン中に写り込んでしまうことや、激しく動き回る田中圭氏のスーツが汗で濡れ、ワイシャツ下のマイクが水没して音が使い物にならなくなることもあった。風の吹かれや激しい動きが心配であったが、試行錯誤の末、ネクタイの結び目に下向きにマイクを仕込むことで、なんとか実用に耐える収録環境を確保している。

撮影終了後は各パートが撤収作業を行い、その後は下田東急ホテルの会議室にてプレビュー作業が行われる。DI（デジタル・インターメディアイト）担当者が撮影済みメディアを受け取り、録音Bセットが音声素材を持って先行移動して仮編集が始まる。録音部5班分のメディアから50を超えるトラックを入れ込み、Pro Tools上でセリフの選定・編集・映像とのリンク作業が行われた。



プレビュー用サウンド編集

【編集と試写、そして仕上げに向けて】

編集作業終了後には、監督やキャスト、全スタッフが一堂に会して試写を行い、その日の撮影を振り返る反省・検討会が実施された。

三谷監督は、上映後すぐにキャストへ芝居に関するダメ出しや台詞変更を指示し、それに伴うカメラ動作や演出面の修正について、各パート

と綿密に打ち合わせを行う。こうして、監督・キャスト・スタッフが一体となって、明日の撮影に向けた調整と改善に取り組んでいった。

録音部においても、マイクの取り付け位置の



オールスタッフでのプレビュー

再検討や、FM ラジオの電波飛距離の改善など、細かな検証と対策を繰り返した。

【仕上げ作業】

前2作である山編と空編では、テレビ放映を前提とした音声編集が行われたが、今回の海編では初めから東宝での劇場公開が決定しており、5.1chでのダビング作業が予定されていた。

映像は1シーン・1カットで構成されているため、編集作業は比較的シンプルだが、オープニングとエンディングのクレジットが確定すれば、全体のサウンド編集が可能となる。また、昭和の浜辺では、タイムスリップを表現するため、背景に映る漁港やホテルといった建造物の消去、洞窟出入り口でレンズにフィルターが挿入された瞬間を修正、さらには洞窟内でのコウモリの襲撃をCGで加えるなど、映像面でも時間と手間のかかる作業が山積していた。

サウンド編集としては、ラッシュ時に再生したマルチトラック素材をもとに、最終テープレビュー用サウンド編集オールスタッフでのプレビューを再構築していく作業が必要だった。

改めてラッシュの音声を確認したところ、撮影直後の短い時間内でベストな音声素材を選んでくれていたことが、その後のダイアログ編集のためにたいへん有効であった。

仕上げに向けては、監督の舞台のスケジュールが詰まっていたため、東宝スタジオでの最終ダビング作業は2025年1月28日・29日に設定された。

その間3ヶ月近い余裕があったため、他の仕事の合間に自宅スタジオで時間をかけてサウンド編集を進めることができたのは幸いだった。11月には監督から台詞の一部修正の連絡があり、アフレコを行う旨のメモが届いた。監督は仮音楽を組み込んだうえで繰り返しラッシュを確認し、キャストごとの修正箇所を指示してきた。中には私の方で処理可能な部分もあり、それらは現場音を生かして対応した。

アフレコは東宝撮影所 ADR スタジオにて、キャストのスケジュールに合わせて同月中に実施。自宅で収録済み音声に差し替え、現場音とのアンビエンスマッチを行った。近年はAI技術の進化により、アンビエンスやノイズの整合性を取るプラグインが多数登場しており、驚くべき精度とスピードでの作業が可能になっている。かつて何時間もかけて行っていた加工が一瞬で処理できる今、私にとってこれらのツールはもはや欠かせない存在となっている。

【終わりにあたって】

最終的なダビング作業は、1月28日と29日に東宝撮影所ポストプロダクション2で行われた。監督の多忙なスケジュールにより、28日一日で仮ミックスを終え、翌29日に再チェックと細部修正を行い、無事完了した。

その後、映像編集やCG作業が進行し、最終的に4月9日に新しい映像に合わせて5.1chのダ

ビングマスターのチェックが行われ、5月15日にはDCP試写、5月22日には放送用ステレオマスターおよびブルーレイディスク用のステレオミックスが行われた。

今回の「おい、太宰」も含め、これまでの1シーン・1カットムービーは、すべてワイヤレスマイクのみを用いた100分以上の同時録音で成り立っている。最初の作品「shortcut」では、同時録音は無理だろうとの大方の意見を他所に、3名だけのスタッフで収録に挑み成功を収めている。「大空港」では、多数のキャスト出演により5名体制となり、各自が分担して録音にあたった。

過去2作では、カメラやキャストの動きがある程度見切れており、自らの身を隠すことが可能だった。しかし「おい、太宰」では、前半の現代パートを除く全編で、スタッフが映像上で完全に視界外に外れる必要があった。このため、連絡手段としてはハンディトーカー（無線）以外になく、しかし同時録音ゆえにその使用にも制限を加えることが必要だった。今回採用した2局間通信によるFM放送は極めて有効であり、制作進行の中核を担う存在となっていた。

録音を担当した私を除く5名は、いずれも映画やテレビにおける同時録音での豊富な経験を持つプロフェッショナルであり、彼らの知見と工夫がなければ、この同時録音は成し得なかったと思っている。

ワイヤレスマイクは技術的にも格段に進化しており、ワイヤレスマイクのみによる1シーン・1カットムービーは、今や私にとって最も心踊る仕事の一つになっている。その際の緊張感は、フィルム時代の同時録音にも通じるものがあり、経験を重ねてきた今でもその思いは変わらない。

三谷監督をはじめ5名のキャスト、全スタッフ、そして頑張ってくれた録音チームの仲間たちにこの誌面をお借りして心より感謝を述べたい。

事務局便り



■令和 8 年度機構関係費用のお振込みをお願いします

令和 8 年度当機構関係費用（年会費・運用調整費）の請求書を、全会員社に発送させていただきました。納入期限は令和 8 年 7 月 3 1 日(金)です。未納金（滞納金）がある会員社は、合わせて早めのお振込みをお願いします。

暑中お見舞い申し上げます

特定ラジオマイク運用調整機構

